

# 土・人・水

長野県大町市大町3887番地  
 大町市土地改良区  
 水土里ネットおおまち  
 地域用水対策協議会  
 TEL 0261(22)5542  
 FAX 0261(23)0766  
 www.midorinet-omachi.jp

## 久保調整池でため池の整備イベント開催

平成30年7月豪雨では、各地ため池で決壊による災害が頻発しました。これを受けて国や県が主体となり、法律の整備のほか、防災機能の強化の為に施設の更新、設備の設置が急ピッチで進められています。

大町市土地改良区管内にも大小14のため池が現存しており、その全てが耐用年数を超過し、見た目の老朽化も深刻な状況です。また、農業者でもその存在を知る人は少なくなってきたおり、防災面を重視するうえで、ため池の場所や、機能、危険性などを幅広く市民の方々に知ってもらい、後世に引き継ぐことが極めて重要です。

こういった課題に対処すべく、令和2年10月30日、地域用水対策協議会、高瀬川上流水利運営委員会、大町市土地改良区の共催で「ため池を再生しよう」をコンセプトに久保調整池で景観整備イベントを開催しました。

早朝より野口自治会、高根自治会、企業、市職員、県職員などたくさんの方にご参加いただき、フェンスのつる取り、ため池内の除伐、沈砂地の排土作業を中心に作業を行いました。その

ほかに、大町市職員に協力してもらい、ため池内の生物の調査や作業中・作業後のドローン撮影を行い、その様子や結果を後日開催したパネル展で展示しました。

ため池をきれいに整備することにより、共同で作業することの大切さや、豊かな自然の美しさを実感することができました。また、後日市役所ロビーで開催したパネル展では、当日の様子他に、管内のため池の紹介、防災重点ため池、ため池の構造についての展示を行い、訪れた方のため池の魅力や構造、危険性なども知ってもらおうことができました。

これからも、ため池の通常管理とは別にため池の再生や後世への継承を念頭に、より多くの市民の方にも知ってもらい、備えてもらうための様々な活動を行なっていきたくと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。また、お忙しい中、イベントにご参加いただいた方、展示作業をお手伝いいただいた関係機関職員のみな様に改めて感謝申し上げます。



写真：作業完了時の集合写真  
 (ため池上空よりドローンで撮影)

## 清らかな水資源を守るために

例年3月の最終週の日曜日、大町市の一斉清掃に合わせ、各自治会、農家組合に呼び掛けて川ざらいを行ってまらっています。農村地域の風習や伝統が色濃く残る平・社・大町地区の一部では、川ざらいは、各地区の普請として行われ、地域住民が一丸となり、川掃除に汗を流します。

これまでは、田や畑の耕作者が積極的に水路のゴミ上げ、土砂上げを行ってききましたが、農業人口の減少、耕作者の高齢化が起因して、どの地区も川ざらいが困難になっています。特に大町地区の中心部は居住区や商業区などの開発が盛んになるにつれ、田や畑は減少し、川ざらいなどの風習が薄れてくるようになりました。また、それぞれの居住区外に田や畑をもつ人も多く、各自治会でまとまった作業がで

きないところもあります。しかし、大町市の中心部に流れこむ水資源は農業用に使われた後は、希釈水、防火用水の他、池水や花木の生育、器具や機械の汚れ落としなど様々な用途で使われています。今までと同様に地域外の田んぼに使用する水路は別としても、各地区内にある水路については、自治会を中心に地域住民が一体となって守って行って欲しいと思います。また、農家組合等で自治会にお手伝いの要望があった場合は、可能な範囲でお助け頂ける様お願いします。

事務局としては、川ざらいの報告書の内容を精査し、皆様の手の行き届かない水路、作業困難な場所等を中心にお助けしていきますのでよろしくお願います。

大町の清らかで貴重な水資源を未来に継承するためには、住民一人一人の力が不可欠です。これまで通りのお力添えとご協力に感謝しつつ、改めてご協力をお願いいたします。



写真：清らかな源流の一つ鹿島川

## ため池の水難事故注意!

日本国内には、おおよそ20万箇所のため池があり、県内には約1,800箇所、大町市内にも大小25箇所のため池が現存しており、そのうちの主に農業用として利用している8か所のため池を大町市土地改良区で所有または管理しています。近年全国各地でおきている大地震や集中豪雨時のため池が決壊するなどの災害が多発したことを受け、国や県が主体となり、これまで法律の整備、改修事業などが進められてきました。当改良区管内でも、5箇所にため池監視システムが設置され、居谷里ため池では本年度も改修工事が実施される予定です。

当改良区や地域用水対策協議会でも、ため池の安全性や維持管理について重ねて審議され、昨年度は景観整備イベントやパネル展を開催し、ため池の現状や危険性を啓発してきました。しかし、ため池での水難事故は、後を絶たないというのが現状で、今年5月9日にも香川県丸亀市でため池で釣りをしていた親子が命を落とすといういたたまれない事故が発生しました。ため池という施設は、斜樋底樋部の階段工を除いては人が入ることを想定していない構造となっております。さらには経年により深く堆積した泥が底部まで堆積しており、子供の身長以上になることもあります。また、堤体内部表面は遮水シート等で覆われていることもあり、堆積泥が堆積することにより

滑りやすさが倍増し、泥に足を取られるため、入水してしまえば、自力で這い上がることはほぼ不可能です。

体力にそこその自信がある私自身も過去に水を払った状態のため池に入り、泥で覆われ抜け出せなくなり、地上にいた数人にロープを投げ入れてもらい助けてもらった経験があります。このときは最初、ひざ下ぐらい埋もれていた体が、自力でもがくうちにいつのまにか腰の位置まで埋まってしまう、自力で動くこともできなくなったため、命の危機すら感じました。もし水が張ってあるため池で一人作業をしていたら、恐らく命はなかったでしょう。水難事故は海や川でも毎年のように起きていますが、ため池というのは、水の流れも穏やかで一見、生死に係る事故のイメージは湧かないという人が多いと思います。しかし、そこが落とし穴であり、ため池に入水してしまえば小さな子供は勿論、体力のある大人、泳ぎが得意な人でも関係なく命をおとす危険性があります。ため池は原則、フェンスでの囲い、施錠などにより一般の人が出入りできない様になっているものがほとんどですが管内には諸事情により安全施設が設置されていない箇所もあります。一般者に対し釣り禁止や立入禁止の看板は設置されていますが、釣り人の進入は後を絶ちません。今後もパトロールの強化、安全施設の強化、啓発活動などにより、水難事故防止を掲げて活動していく所存です。管内ため池の中には、地域住民の憩いの場や農業遺産として地域社会に強く

根付いているものもあり、「ため池に近づかない」というのは難しいかもしれませんが。ため池で遊ぶことや釣りはもとより禁止ですが、自然の豊かさや美しさを撮影したり眺めたりは、未来へ継承するためにも重要な事です。自身自身の命を守るためにも堤体の内部に入らないとか一人でため池に行かないというルールを徹底して守っていただきたいと思えます。管理者としては、ため池での水難事故で亡くなった方のご冥福と、今後このような事故が少しでも減るように祈りつつ、日々の維持管理に努めてまいりたいと思えます。

## コロナ禍での西小米作り体験

今年は4年に1度の東京オリンピックが、一年延期され開催されています。昨年から続いてコロナ禍ではありますが、大町西小5年生の「米作り体験学習」を行っています。

昨年と同様で大人数ではマスク着用がマナーであり、大声でしゃべったり、笑ったりが規制される中ではありましたが、その分ひとりひとりが真剣に講師の話聞き、集中して作業を行う姿が印象的でした。それでも作業の途中で時折マスクをとり、笑う姿や、「代掻き」体験では、どろまみれで田を駆け回る姿を見て、ほのぼのとした気持ちになりました。

米作り体験学習を通して農業に関心をもち、人と人とのふれあい、助け合いの大切さを感じて、未来へ継承し

ていつてもらいたいと思います。また、早くこのコロナ禍が収束し、日常を取り戻し、子供達の笑顔や笑い声が制限なく溢れる米作り体験になることを願うばかりです。



写真：西小5年生代掻きの様子

## 節水にご協力ください

梅雨が明け、出穂の開花前のこの時期は、こまめな水利調整が必要になりますが、かんがい用水の利用時間帯によつては、水路の末流で水が不足する場合があります。また、大町市の社北地域では、沢水を利用したうえ、番水制により田に水を掛けています。

これからの時期、各水路に出水する本川水路(籠川、鹿島川、農具川)も安定した水量の確保は困難となり、湧水も沢水も減少することが予想されます。

水資源の豊富な大町市とは言われますが、時期によっては不足することもありますので、その貴重な水を利用する意識に立ち、お互いが譲り合って、有効な水利用ができるようご協力をお願いいたします。

# 木崎湖と農具川の姿を一変させた 河水統制事業

木崎湖下流の南にひっそりと建つ小さなお堂があります。

三橋堂といふ、「仁科三十三番札所」の一つで、ご詠歌は「かのきしにいたるねがひも 三つのはし わたす御法の 道をたずねて」です。このお堂の北には、農具川と上堰・中沢堰の流れに合わせて三口の水門が設けられ、その上流を糸魚川へ向かう越後往還（「千国街道」というのは俗称）が通過し、三つに区分された通称「三間橋」が架かっていました。

木崎湖に蓄えられた温水がゆるやかに流下する農具川流域は、古代の安曇郡村上郷の中心集落と考えられ、大町における「農耕発生の地」です。平から大町にかけて本流は東の山裾を流下し、大小の水路を右岸側へ引き入れることで開発が進んだとみられます。特に上堰と中沢堰は、木崎から借馬集落東方一帯の広大な耕地の灌漑に用いられ、三間橋の水門で農具川本流とほぼ同等の水量を分水していたと伝えられています。

現在の国道148号が整備された時に、橋も架け替えられ、お堂も少し南に移動しましたが、木崎湖南岸の農具川の姿を大きく変えたのは、昭和一九（1944）年の「河水統制事業」でした。河水統制とは、国策で河川水

を強制的に運用する戦時下の統制政策の一つで、仁科三湖の場合は、青木湖の水深を1.9m、木崎湖の水深を3.0m下げ、農具川を経由して導水し、渇水期を中心に昭和電工広津発電所の発電量を増強しようとするものでした。当時、農具川の水利に関係した集落では、毎年八十八夜にあたる5月1日に、木崎湖尻で杭打ちや土俵積みなどの「つつみふしん（堤普請）」を行い、貯留水の増加を図っており、この減水は下流域の春からの作付けに大きな影響がありました。戦時下で反対はできませんでしたが、事業は、水深を下げるために木崎湖への流入量を減らして、湖尻一帯を干して、掘り下げる工事から始まりました。掘った土砂は、湖岸に積み上げられ、それまで遠浅の浜辺であった湖岸には道路や広場ができました。従来の農具川とは別に、湖尻の西側から三間橋付近まで新たに深い水路が掘られ、巻き上げ式の水門が設置されました。「ゆーぶる木崎湖」東側の深い掘割は、この時掘られた水路で、現在は、これが農具川の本流になり、「くびつと橋」の下をゆったり流れ出る古い農具川は、水草が花を咲かせ往時をしのんでいます。



図：江戸時代の木崎湖（海ノ口池）と農具川の様子。中央付近に三つ並んで描かれている三間橋。享保7年（1722）大沢寺山水論幕府裁許絵図より

設けただけでは農具川の河床が高いままなので、水は流出しません。このため高瀬川と合流する館之内付近まで農具川を掘り下げる工事も同時に行われました。戦時下ですから十分な機械もなく、多くは人力による手掘りの作業と伝えられています。

また、分岐している上堰と中沢堰でも河床が高くなり、水が流れなくなりました。このため、両用水路へは、揚水ポンプを据え付けて水を汲み上げ、送水することになりました。その後、長野オリンピックに伴う平成7年の国道148号の改修工事により、さらに周辺の整備が進み、今ではかつての面影はほとんど残っていませんが、ひっそりとたたずむ三橋堂に豊かな実りを祈った人々の願いを今に伝えていきます。

（文責 荒井今朝一）

当協議会では、例年8月にふれあいイベント「土・人・水」を開催してまいりました。しかし、新型コロナウイルスの流行により人と人との接触を制限される中、一昨年から利水関係団体及び、近隣有志により親水公園の整備作業のみを行っています。

本来であれば、たくさんのご家族、親子にご参加いただき、作業後には魚つかみやスイカ割などの企画を楽しんでいたただきたかったところですが、本年度も大事をとって中止することになりました。参加を楽しみにされていた方々には心よりお詫び申し上げます。

なお、事務局としては、新型コロナウイルスの収束した後は、これまで以上に笑顔あふれるイベントになる様、企画に力を入れてまいりますので、皆様のご理解をお願い申し上げます。

## ふれあいイベント「土・人・水」 についてお知らせ



写真：豊かな実りを今に伝える三橋堂

水土里ネットおおまち地域用水対策協議会主催

# 第18回「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展

今回で第18回目を迎える子供絵画展ですが、コロナ禍の中で休校などが続き、大声で笑ったり、話したりが制限される中に行った貴重な「稲刈り体験」を木版で表現してくれました。例年は稲を刈る姿を表現した作品が多いのですが、今年は少人数で作業を分担・短時間で稲刈りを行ったので、それぞれの視点で描かれたバラエティーに富んだ作品が多かった印象です。どれも表現力豊かで甲乙つけがたい作品でした。

## 会長賞



「たくさんの想いを1束にこめて」

ないとう けいた  
内藤 奎太

## 理事長賞



「稲をかっいでいる僕」

にしざわ はると  
西澤 大翔

## 努力賞



「初めての稲刈り」

あんどう ひなた  
安藤 ひなた



「楽しい稲刈り」

おおた はやと  
太田 迅人



「稲を刈ったぜ！ とったぞー」

つばお よま  
続麻 世稀

応募作品は、大町市役所2階東連絡通路に展示しました。3月24日に大町市役所西会議室にて表彰式が行われ、牛越会長より表彰状と記念品が授与されました。



<http://www.midorinet-omachi.jp>

ホームページもあります。  
**水土里ネットおおまち** で検索